

(語学研究部)

3月28日に、本校のiRis Hallにて、キリバスのサクレッドハート高校(SHC)とオンライン交流を行いました。これは、「キリバス民間ユネスコ協会設立支援プロジェクト」を実施している仙台ユネスコ協会のご協力、学校間交流としてのESD/SDGs活動、多文化共生社会の学びのために行っていただきました。通訳としては、日本キリバス協会の小野ジョン正雄さんと、SHC側にキリバス在住のジョング アニータ夢海さんが、生徒の英語交流を基本にしつつ、英語とキリバス語で補足しながら通訳と進行をしていただきました。本校の部員は、これまでキリバスについてほとんど知らなかったのですが、キリバスについての事前学習をとおして、少しずつ違いや共通点、環境問題等に気づいていきました。

オンライン交流の内容は①学校紹介②自己紹介③アイスブレイク(日本の災害に関するクイズ)④語学研究部の防災・減災活動の紹介⑤サクレッドハート側からキリバスが現在直面している問題と解決方法⑥質問等、でした。

キリバスは海拔が平均で2メートルのため、海面上昇によって海岸の浸食が危機的問題となっています。浸食のため水質が悪化し、生活用水としては雨水と井戸水を使用しているのですが、井戸水は塩分を含むようになってきています。対策としては護岸を作ったり、マングローブを植林したりしていますが、それぞれ、資材の不足や植物の生長不良等うまくいかないと話していただきました。

お互い自由に質問しあった際には、キリバスの生徒から、部活動以外のスポーツのことや、火山噴火の影響、自然災害が起こったときの生徒の登校方法等について尋ねられました。多賀城高校の生徒からは、食べ物、トイレ、卒業後の希望進路、自然災害防止策等を尋ねながら交流していきました。

今回は、両校の生徒にとって初めてのオンライン交流であり、文化の違い、環境の違いだけでなく、地球が抱える共通の問題等に気づくことができました。今後はこれらのことをもっと話し合っていきたいと思います。

【生徒の感想】

Zoomを通じて直接話を聞くことができる貴重な機会でした。お話以外からも、所作や雰囲気から多くの文化の違いが見て取れました。特に両国の災害について詳しく情報交換をすることができ、日本では大きな問題にはならないことがキリバスでは問題になることを知ることが出来ました。キリバスの災害とその防止策、その防止策の課題点についても教えてもらいましたが、キリバスの人々が努力しているのが分かる反面、資金や技術協力があれば解決しそうな問題だと感じました。環境問題はキリバスにとって一刻を争う問題なので、他国から援助を募るのもありなのではと思いました。

質疑応答の際、日本文化についての質問が案外少なく、日本の災害について掘り下げた質問が多かったため、私の災害についての知識不足が露呈したことです。相手が興味を持ちそうな話題について、こちらも事前に知識を深めて質問対策をすべきだったと感じました。

(渡辺夏凜)

同年代で違う国の生徒と交流する機会はなかなかない経験なのでとても良い刺激になりました。お互い公用語ではない英語を使っていたけれどキリバスの生徒さん達が堂々と話している姿は強く心が惹かれました。一方私は文法や発音を気にしすぎて正しいかどうか、恥ずかしい発音ではないかを気にしすぎてしまっていました。もちろん、正しい英語を学ぶことは必要ですが、私は海外の人とコミュニケーションを取り、会話をしたりする事に憧れを持っています。そして今回交流会で実際にお話ししたキリバスの生徒さん達は私の理想でした。今ではインターネットが完全と言えるほど普及して、海外の人とコミュニケーションを取ることのできるツールも増えていきました。私達はこの便利なツールを宝の持ち腐れとならないよう活用していくべきだと思います。今回の悔しさを忘れず次回の交流会がもしあるのであれば正確さではなく、伝えたい思いを大切にして積極的にお話をできたらいいなと思います。(中村優琴)

今回のキリバスとの国際交流は自分にとって語学研究部らしい活動ができた経験になりました。私たちが外国について知っていることは、ネットや教科書に基づいた、他人からの情報に過ぎず、実際にその国に住んでいる人に聞いた方が、地域特有の風土や歴史などを詳しく聞けることを実感しました。国際交流という言葉自体は知っていても、具体的にどのようなことをするのが国際交流なのかを、交流の準備の時に教わったおかげで、当日は比較的リラックスして臨めましたが、自分の役割に集中しすぎてしまい、全体を見られない場面があったことです。今後またこのような機会があれば、このような懸念を解消して、楽しく望んでいきたいです。(寺島祥)

キリバス交流を通して良かったことは、聞きたい事をしっかりと聞いたことです。もちろん緊張はしましたがこれまでやれるだけの準備を怠らなかったので関心のあった食について質問できたので良かったです。一方で少し準備不足だったと感じた事はクイズの内容に対する自分自身の理解です。自分は火山を担当したのですが、どんな危険が火山は及ぶのか、どんな対策を行なっているか等の質問が来た時返答に焦ってしまったのもう少し火山について自分自身が知っておくべきだと考えました。今回の活動を通して私はこれから準備というのを大切にして自信をもう少し持って、楽しくみんなで取り組みたいと思いました。また、先輩に助けをもらう場面が多々あったので、少しずつでも自分から動けるように頑張っていきたいと思いました。(阿部寛輝)

